製品名: TSSC3 ウサギポリクローナル抗体
カタログ番号: APRab19374
研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20℃で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	

抗原情報

遺伝子名	PHLDA2
別名	PHLDA2; BWR1C; HLDA2; IPL; TSSC3; Pleckstrin homology-like domain family A member 2; Beckwith-Wiedemann syndrome chromosomal region 1 candidate gene C protein; Imprinted in placenta and liver protein; Tumor-suppressing STF cDNA 3 protein; T
遺伝子 ID	7262.0
SwissProt ID	Q53GA4
免疫原	抗血清はヒト PHLDA2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲：81-130

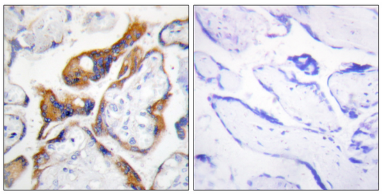
背景

この遺伝子は、染色体 11p15.5 上のインプリント遺伝子クラスターに位置し、重要な腫瘍抑制遺伝子領域と考えられています。この領域の変異は、ベックウィズ・ヴィーデマン症候群、ウィルムス腫瘍、横紋筋肉腫、副腎皮質癌、肺癌、卵巣癌、乳癌と関連する可能性があります。この遺伝子はインプリントされており、胎盤と肝臓において母体アレルから優先的に発現することが示されています。[RefSeq 提供、2010 年 10 月], ドメイン：PH ドメインは、ホスホイノシチドに広い特異性で結合します。他のタンパク質の PH ドメインと競合し、ホスファチジルイノシトール 4,5-ビスリン酸（PIP2）およびホスファチジルイノシトール 3,4,5-トリリン酸（PIP3）への結合を阻害する可能性があります。,機能：胎盤の成長を制御する役割を果たします。他の PH ドメイン含有タンパク質と競合する PH ドメインを介して作用し、それによって膜脂質への結合を阻害する可能性がある。,誘導：母系の PHLDA2 アレルは活性化されるが、父系の Phlda2 はゲノムインプリンティングにより抑制される。低酸素によってダウンレギュレーションされる。PHLDA3 タンパク質と非常に類似しているが、p53/TP53 による制御は受けない。,その他：PHLDA2 遺伝子座はインプリンティングされる。インプリンティングの喪失は過剰発現をもたらす。インプリンティングは RNAi 機構に依存する。,類似性：PHLDA2 ファミリーに属する。,類似性：1 つの PH ドメインを含む。,組織特異性：胎盤および成人前立腺で発現する。胎盤では、絨毛細胞栄養芽層の全ての細胞に現れる。胞状奇胎の細胞にはこのタンパク質は存在しない。胞状奇胎は、胎児と栄養芽細胞の両方の発達異常を特徴とする妊娠疾患です。胞状奇胎の大部分は、父方ゲノムが母方ゲノムよりも過剰に発現していることに関連し、インプリンティング遺伝子（タンパク質レベル）の異常発現に起因すると考えられます。成人の肝臓、肺、胎児の肝臓では低レベルで発現しています。成人の脳、神経芽腫、髄芽腫、神経膠芽腫の細胞株でも発現しています。

研究分野

細胞生物学、細胞周期、細胞周期阻害剤、エピジェネティクスと核シグナル伝達、転写、がん感受性、腫瘍抑制因子

画像データ



PHLA2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト胎盤の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。